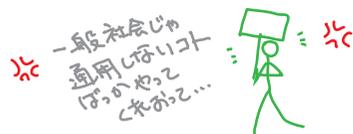


◆第3回目◆  
2012年7月6日(金曜日)  
18:00～19:00  
元安橋東詰からスタートし  
本通り、金座街を往復します。  
毎週金曜か土曜の夕方に歩きます。



## 広島2人デモ



いてもたってもいられなくなった仕事仲間と恥も外聞も捨てて仕事の合間にたった2人で歩く。それが2人デモです。黙っていたら社会人としてだけではなく、企業人としても恥。野田首相! あなたは恥を知るノダ!



# 黙っていたら“YES”と同じ 大飯原発再稼働に“ノー”とはっきり言いましょう

## 大飯原発を再稼働させるべきではありません

福島原発事故から約16ヶ月、東電福島原発は依然として危険な状況にあります。1986年のチェルノブイリ事故では約10日間で放射能の放出は止まりました。**福島原発からは放射能が出続けています。現状では止める手ではありません。**特にむき出しの4号機プールは危険です。地震、ヒューマン・エラー、劣化による構造物の崩壊など、いつ放射能の大量放出があっても不思議ではありません。東日本で地震があるたび、生きた心地もしません。こんな時に関西電力大飯原発を再稼働させるべきではありません。(裏面参照のこと)

## 大飯原発再起動から半年間がもっとも危険

関西電力大飯原発は15ヶ月間も停止していました。その間、発電タービンを取り替えるなど大幅な手直しをしています。すべての大型機械設備がそうであるように、長期休止状態から再稼働し、安定し安全に稼働するまでしばらく時間がかかります。しかし**関電は試運転期間をおかず、いきなりフル稼働(3号機・4号機共電気出力117.5万kW)しようとしています。**果たして、起動直後、発電タービンの回転異常が発見され、発電開始が当初予定の4日午前7時から大幅にずれ込み、5日午前中となりました。これから何が起るか誰も予測できません。3号機・4号機の操業安全を無視し冷静さと科学的客観性を失って、しゃにむにフル稼働に突っ走る関電の姿勢に大きな危惧を感じます。特にフル稼働後半年間がもっとも危険です。再稼働をやめさせなければなりません。

## 事故を起こさなくても危険な関電原発

若狭湾に面した関電の3つの原発は、過去10年の間、大量の放射性物質トリウムを若狭湾に流し込みました。**原発や核燃料再処理施設は事故を起こさなくても放射能をまき散らす危険な施設**です。(裏面参照のこと)



## 過大に見積もられた夏期の最大需要

再稼働決定の決め手は関西広域連合の「降参」宣言でした。そのポイントは夏期の最大需要に対して電力供給量が足りないという関西広域連合「電力需給等検討プロジェクトチーム」の結論でした。しかし関西広域連合の結論はあやまりでした。「夏期最大需要が3日間続く」とした**関西広域連合の需給予測はすでにウソであることがはっきりしました。**6月28日関西電力は2011年3月の最大計画値3017万kWを早くも下方修正し、2829万kWと発表しました。この下方修正値そのものを怪しい数値ですが、そればかりではありません。さらに需要は小さいものであることがはっきりしました。(裏面参照のこと)

## 原発利用率を高めるために 火力・水力の利用率を低く抑える

2010年度(2010年4月から2011年3月)、関電の設備利用率は、原発78.2%、火力発電33.3%、水力発電21.0%でした。原発利用率を高めるために火力・水力を異様に低く抑えていました。特に**発電能力441万kWを誇る3カ所の揚水発電所は全く稼働させていませんでした。**(裏面参照のこと)

## 微妙に変わる野田政権の言い方

2012年6月29日大飯原発再稼働を決めた野田政権は、**夏期電力不足を理由に「国民生活安定のため大飯原発再稼働を決定」と首相野田佳彦氏自身の口で明言**しました。ところが、大飯原発が発電を開始した7月5日午前11時の定例記者会見で官房長官藤村修氏は、内外記者団を前に**「大飯原発再稼働は政治判断で行ったのではない。大飯原発再稼働は100%安全だと判断した」と明言**しました。内外記者団は誰1人「何を根拠に100%安全と判断したか?」とは問い返しませんでした。野田政権は「国民生活安定のため」という理由から「再稼働は安全だ」という言い方に微妙にずらしつつあります。これは次の原発再稼働の布石と見ることもできます。

# 大飯原発を再稼働させるべきではありません

## 依然として危険な状況の東京電力福島第一原子力発電所

放射線源	放射性物質	密閉状況	対策	評価	備考
1号機原子炉	燃料装科体：400体 (注1)	極めて不完全	水で冷却	危険	出力：46万kW
1号機プール	燃料装科体：292体	完全オープン	水で冷却	危険	
2号機原子炉	燃料装科体：548体 (注2)	極めて不完全	水で冷却	危険	出力：78.4万kW
2号機プール	燃料装科体：587体	完全オープン	水で冷却	危険	
3号機原子炉	燃料装科体：548体 (注3)	極めて不完全	水で冷却	危険	出力：78.4万kW
3号機プール	燃料装科体：584体	完全オープン	水で冷却	危険	
4号機原子炉	燃料装科体：0体	燃料なし	-	安全	出力：78.4万kW
4号機プール	燃料装科体：1331体	完全オープン	水で冷却	特に危険	
5号機原子炉	燃料装科体：548体 (注4)	完全密閉	水で冷却	小康状態 (注6)	出力：78.4万kW
5号機プール	燃料装科体：946体	冷温停止	水で冷却	小康状態 (注6)	
6号機原子炉	燃料装科体：764体 (注5)	完全密閉	水で冷却	小康状態 (注6)	出力：110万kW
6号機プール	燃料装科体：876体 (注6)	冷温停止	水で冷却	小康状態 (注6)	
				(合計)	<b>出力：469.6万kW</b>

- 注1：(9×9) 322体、(8×8) 68体合計400体
- 注2：(9×9) 548体
- 注3：(9×9) 516体、MOX (8×8) 32体合計548体。
- 注4：(9×9) 548体
- 注5：(9×9) 764体
- 注6：もし何らの理由で1号機から4号機に事故が発生し、大量の放射能を放出すれば人の手による保守が不可能になり、冷却できなくなる恐れがあり小康状態とした。
- 注7：もし電気出力100万kWあたり10トンの核燃料が必要とすれば、1号機から4号機合計で約28トンの核燃料（プール在庫分は除く）が存在することになる。もし5号機・6号機を含めれば約47トンの核燃料が存在する。チェルノブイリ4号機は100万kWの出力で放出した放射性物質は約10トンだった。また広島原爆の核燃料は約60kgで、うち約1kg弱が核爆発した。

3号機はプルトニウム酸化物を混合したプルサーマル炉。

関電の公開資料を覗いてみれば、電気は足りるとすぐわかる。政治家・専門家に言わせた「電気が足りない」マスクも裏を取らず、スピーカーで騙されたアンタ（政府・関電）が悪いのか、騙されたワタシ（国民）が悪いのか…



# 原発利用率を高めるために 火力・水力の利用率を低く抑える

## 関西電力 自社発電実績に対する 認可発電設備の割合と推定発電量

発電原	2010年度実績	推定最大発電量	設備利用率
水力発電	15,074	71,797	<b>21.0%</b>
火力発電	49,369	148,105	<b>33.3%</b>
原子力発電	66,954	85,568	<b>78.2%</b>
新工ネ発電	126	53	237.7%
合計	131,523	305,523	43.0%

- \* 2010年度（2010年4月～2011年3月）発電実績の単位は百万kWh
- \* 認可発電設備は国から認可を受けた発電設備能力。一般企業でいえば生産能力に相当する。推定最大発電量は認可発電設備に1年8670時間をかけたもの。単位は百万kWh（百万kW以下は四捨五入）
- \* 設備利用率は2010年度発電実績を推定最大発電量で割ったもの

# 過大に見積もられた夏期の最大需要

2012年5月19日、関西広域連合関西広域連合エネルギー電力需給等検討プロジェクトチームは「関西電力管内における今夏の電力需給見通し等の検証結果」を発表し、「最大需要電力3017万kWが三日間続いた場合、原発なしでは約10%から15%電力が不足する」という結論を出し、関西電力に「降参宣言」をしました。これをきっかけに野田政権は、「国民生活安定」のために大飯原発を再稼働する、と閣議決定しました。このプロジェクトチームは、供給力の鍵を握る揚水発電所（3カ所合計：441万kW）の設備利用率をおかしな理由で低く見積もった上、関電が昨年3月に発表した最大需要見通し3017万kWを無批判に検証数字として採用しました。多くの方が3017万kWという関電の需要予測に疑問を持っていましたが、果たして関電は今年の株主総会直後の6月28日、今後10年間の電力供給計画を経済産業省に提出し、その中で今夏の最大電力は3017万kWから下方修正し2829万kWとしました。3017万kWそのものがウソだったので。さらに2829万kWも怪しい数字です。というのは節電が始まる7月1日以降平日の5日間（7月2日から6日まで）の需要予測を、もともとの2740万kWから500万kWも下方修正する2240万kWとしたことでも明らかです。（関西電力「でんき予報」より）

関西広域連合の検証結果は大飯原発再稼働の引き金になりました。そのキーポイントの一つが最大需要予測でした。そのキーポイントが大幅に修正されたのに、もう一度再検討しようという声は一向に聞こえてきません。こうなると関西広域連合も政府・関電とグルだった、といわれても仕方がありません。彼らは「電力不足」の威しがうまく効いた、とほくそ笑んでいるかも知れませんが、私たちは忘れていません。監視・検証も続けています。

### <参照資料一覧>

- ・関西電力株式会社 平成23年有価証券報告書（2010年4月～11年3月期）
- ・原子力施設運転管理年報 独立行政法人原子力安全基盤機構発行平成23年度版（2011年度版 2010年度実績）
- ・日本経済新聞「福島第一原子力発電所事故の経緯」（2011年7月5日閲覧）
- ・長野県「小出裕章インタビュー：正しい情報を伝え、皆の知恵を集めることが破産回避の唯一の道 その②」
- ・「関西電力管内における今夏の需給見通し等の検証結果（概要）」平成24年5月19日 関西広域連合 エネルギー検討会議 電力需給等検討プロジェクトチーム
- ・「関西電力管内における今夏の需給見通し等の検証結果（資料8）」平成24年5月19日 関西広域連合 エネルギー検討会議 電力需給等検討プロジェクトチーム
- ・関西電力「今後10年間の電力供給計画」2012年6月28日 産業経済省提出
- ・関西電力「でんき予報」（2012年7月1日閲覧）
- ・内閣府長官官定例記者会見（2012年7月5日11時00分より TBS系CATV「ニュースバード」の官房長官記者会見ライブ中継視聴）
- ・「怒りの緊急デモ 大飯原発再稼働を止めよう！」の当日配布チラシ「1.16デモ実行委員会」（森本道人代表）発行 2012年6月16日

# 事故を起こさなくても危険な関電原発

## 関西電力の3原子力発電所が 10年間で放出した液体の形でのトリチウム

単位：テラ（兆）ベクレル

年度	美浜発電所	高浜発電所	大飯発電所	総合計
2001	1.7	5.3	1.3	
2002	1.8	6.3	6.4	
2003	2.3	5.9	9.0	
2004	1.6	6.3	9.8	
2005	1.5	6.9	6.6	
2006	1.4	6.8	7.7	
2007	2.0	6.0	8.9	
2008	1.8	4.0	7.4	
2009	2.3	4.3	8.1	
2010	1.3	6.5	5.6	
合計	17.7	58.3	70.8	<b>146.8</b>

## 関西電力の主要水力発電設備

水力発電設備（単位：kW）

番号	発電所名	認可最大出力	常時出力	対設備比
1	黒部川第四	335,000	88,000	26.3%
2	黒部川第三	81,000	0	0.0%
3	新黒部川第三	107,000	45,200	42.2%
4	黒部川第二	72,000	5,000	6.9%
5	新黒部川第二	74,200	32,000	43.1%
6	音沢	124,000	0	0.0%
7	新祖山	68,000	0	0.0%
8	小牧	85,600	36,000	42.1%
9	下小鳥	142,000	11,200	7.9%
10	丸山	125,000	21,200	17.0%
11	新丸山	63,000	0	0.0%
12	新椿原	63,100	0	0.0%
13	御岳	68,600	16,560	24.1%
14	読書	117,100	25,400	21.7%
15	木曾	116,000	41,100	35.4%
16	天ヶ瀬	92,000	6,600	7.2%
17	喜撰山	466,000	0	0.0%
18	奥多々良木	1,932,000	0	0.0%
19	大河内	1,280,000	0	0.0%
20	奥吉野	1,206,000	0	0.0%
	以上20カ所計	6,617,600	328,260	5.0%
	その他129カ所計	1,578,181	不明	不明
	水力発電計	8,195,781	不明	不明

揚水発電

※この年度出水率は109.1%だった。